

救急外来部門への診療看護師（NP）の導入によるタスク・シフト/シェアの影響

森 寛泰^{1)2)†} 大西光雄³⁾ 中島 伸²⁾⁴⁾第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 2 (106-111) 2024

要旨

医療界の課題になっている医療従事者の働き方改革を推進していくために、各医療職種間のタスク・シフト/シェアについての議論が進められている。国立病院機構大阪医療センター（当センター）では、2012年から診療看護師（JNP：Japan Nurse Practitioner）を導入し、現在、総合診療科、循環器内科、外科、心臓血管外科、重症集中部において7名のJNPが、医師と連携・協働を図りながら、医療従事者特に医師の就労環境の改善に向けた取り組みを行ってきた。本稿では、JNPを救急外来部門に導入したことによる、医師の働き方改革を考慮したタスク・シフト/シェアへの効果を紹介する。JNPの救急外来部門での役割としては、医師との連携のもとで救急患者の初期対応を担い、病態に対応した方針（帰宅、診療科の選定、入院など）の判断を行うこと、ソーシャルワーカー（MSW）や近隣の関係機関等と連携を図り入院調整や帰宅支援を担うことが挙げられる。この取り組みにより、検査・診断・治療・処置にかかわる幅広い診療業務を医師とJNPがタスクシェアすることができ、医師の診療負担を軽減しながら組織としての診療生産性や医師の生産性の向上を実現できた。また社会的アセスメントも同時に行うためMSW等との連携が救急診療開始時から可能となり、重層的支援を要する患者などに対してもシームレスで総合的な診療が実現でき医療の質の向上に寄与すると考えられた。

JNPは、これからの持続可能な救急医療提供体制を構築していく上で、重要な医療人材であると考えられるが、法的な身分・資格や業務規程は定められていない。本稿で紹介する事例が、日本におけるナースプラクティショナー制度の創設に向けて活用されることを期待している。

キーワード 診療看護師, タスク・シフト/シェア, 救急医療

国立病院機構大阪医療センター †診療看護師 1) 診療部 チーム医療推進室 2) 総合診療部 3) 救命救急センター 4) 脳神経外科

著者連絡先：森 寛泰 国立病院機構大阪医療センター 診療部 チーム医療推進室
〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14

e-mail: mori.hiroyasu.bj@mail.hosp.go.jp

(2023年6月15日受付, 2023年12月15日受理)

Impact on Task Shifting and Task Sharing by Introduction of Nurse Practitioners in Accident and Emergency Department
Hiroyasu Mori¹⁾²⁾, Mitsuo Onishi³⁾ and Sin Nakajima²⁾⁴⁾

1) Department of Team Medical Promotion Office, 2) Department of General Medicine, 3) Department of Acute Medicine & Critical Care Medical Center, 4) Department of Neurosurgery, NHO Osaka National Hospital

(Received Jun. 15, 2023, Accepted Dec. 15, 2023)

Key Words: Nurse Practitioner, task-shifting and task sharing, emergency medicine, advanced triage